

聖書日課 『からし種』 2022.12.4-12.11

<p>12月4日 (日) 民数記 16章</p>	<p>「彼らは徒党を組み、モーセとアロンに逆らって言った。『あなたたちは分を超えている。共同体全体、彼ら全員が聖なる者であって…』」(3節)。モーセとアロンに対する反逆者たちが主の怒りを買って裁かれてしまう。「共同体全員が聖なる者ではないか」という彼らの主張には一理あるように思うが、彼らに一つ欠けていたのは、主に尋ね求めることではなかったか。</p>
<p>5日 (月) 民数記 17章</p>	<p>「アロンが香をたき、民のために罪を贖う儀式を行い、死んだ者と生きている者との間に立つと、災害は治まった」(12-13節)。アロンたち祭司の重要な職務は、身をていして民のために罪の贖いをして民を救うことだった。真の大祭司なるイエス・キリストは、「死ぬべき」私たちの間に生きてくださり、ご自身を十字架にささげ、私たちを「生きる者」としてくださった。</p>
<p>6日 (火) 民数記 18章</p>	<p>「わたし(主)が、イスラエルの人々の中であなたの受けるべき割り当てであり、嗣業である」(20節)。祭司とレビ人たちは他部族のように土地の割り当てを受けず、他部族がささげる「十分の一」によって養われる道が示された。それは人々の信仰に支えられ、「主ご自身」を嗣業として受ける道であった。今日あなたの信仰を第一に選び取る恵みを教えてください。</p>
<p>7日 (水) 民数記 19章</p>	<p>「どのような人の死体であれ、それに触れた者は七日の間汚れる」(11節)。「良きサマリア人」(ルカ 10 章)のたとえで、祭司やレビ人が強盗に襲われた人を避けて道を通っていったのは、この律法の故であった。しかし「良きサマリア人」は、この律法で自分が裁かれることをいとうことなく、道端に倒れた人を助けた。今日、私たちは何に従って行動していくのか。</p>

<p>8日 (木)</p> <p>民数記 20章</p>	<p>「モーセはアロンの衣を脱がせ、その子エルアザルに着せた。アロンはその山の上で死んだ」(28節)。イスラエルの民が「主の命令に逆らった」ために、祭司アロンは約束の地に入ることをゆるされず、ホル山の上で生涯を終えた。祭司は民と共にあり、民の罪を負う。教会が「主の祭司」(第一ペトロ2章)と呼ばれる時、私たちは誰の罪を共に負う者として歩むのか。</p>
<p>9日 (金)</p> <p>民数記 21章</p>	<p>「主はモーセに言われた。『あなたは炎の蛇を造り、旗竿の先に掲げよ。蛇にかまれた者がそれを見上げれば、命を得る」(8節)。「炎の蛇」は人々の不信仰を裁き、神に立ち返らせる力の象徴であった。私たちは裁かれて痛い目にあわないと自らの罪に気づけない実に鈍感な者だが、「炎の蛇」を目にした時には素直にひれ伏す信仰をいただいでいきたい。</p>
<p>10日 (土)</p> <p>民数記 22章</p>	<p>「主はこのとき、バラムの目を開かれた。彼は、主の御使いが抜き身の剣を手にして、道に立ちふさがっているのを見た」(31節)。私たちが御使いの働きに気づくのは何と難しいことか。預言者バラムも叱られて初めて御使いに気づいた。鈍い私たちのために、それでも御使いを送って導いてくださる主に、「今日、わたしの目を開いてください」と祈っていこう。</p>
<p>11日 (日)</p> <p>民数記 23章</p>	<p>「バラムはバラクに答えた。『わたしは、主が告げられることだけをやる、と言ったではありませんか』」(26節)。わたしたちは、自分の望むことを祈り、行いがちです。主が示されることだけを行い通すことは難しい。まして、権力の求めに対してどう行動するだろうか。「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」イエスから教えられた祈りを、今日も心から祈りたい。</p>